



震災時の「mixi」の利用状況について

株式会社ミクシィ

取締役 小泉文明



弊社サービスの紹介

- 2004年2月に提供を開始した『michi』は、友人・知人とつながり、その上でコミュニケーションするソーシャル・ネットワーキング サービス

同級生とつながる
michi同級生

会社の友人とつながる
michi同僚ネットワーク

キーワードでつながる
michiキーワード

つぶやきコミュニケーション
michiボイス

気に入りを共有
michiチェック

予定・イベントを共有
michiカレンダー

日記を作成・共有
michi日記

多様なコミュニケーション
michiアプリ

写真でコミュニケーション
michiフォト





主要データ：mixiユーザー数

月間ログインユーザー数

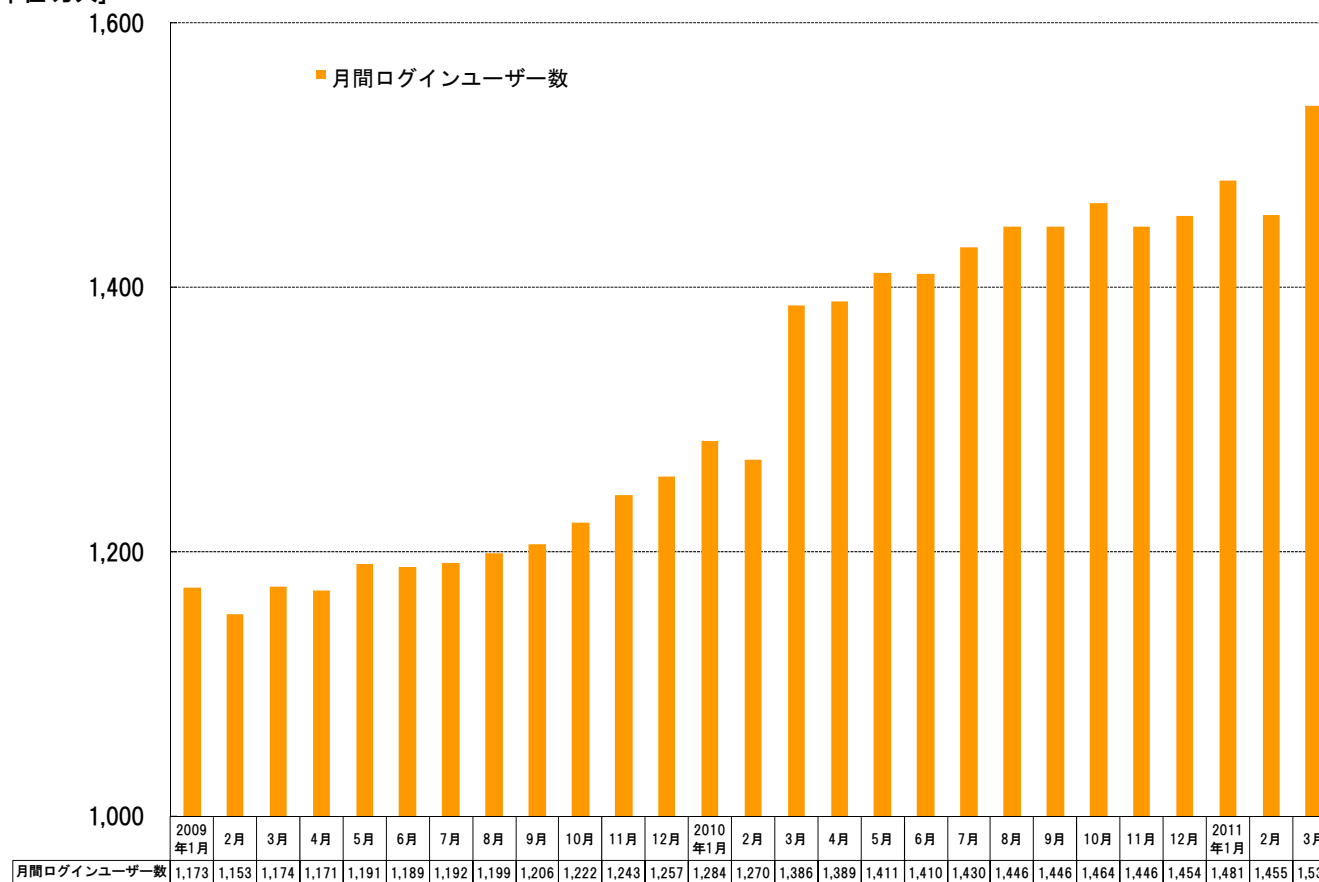
1,537 万人

(1か月に1回以上ログインしたユーザーの数)

登録ユーザー数

2,337万人

[単位:万人]



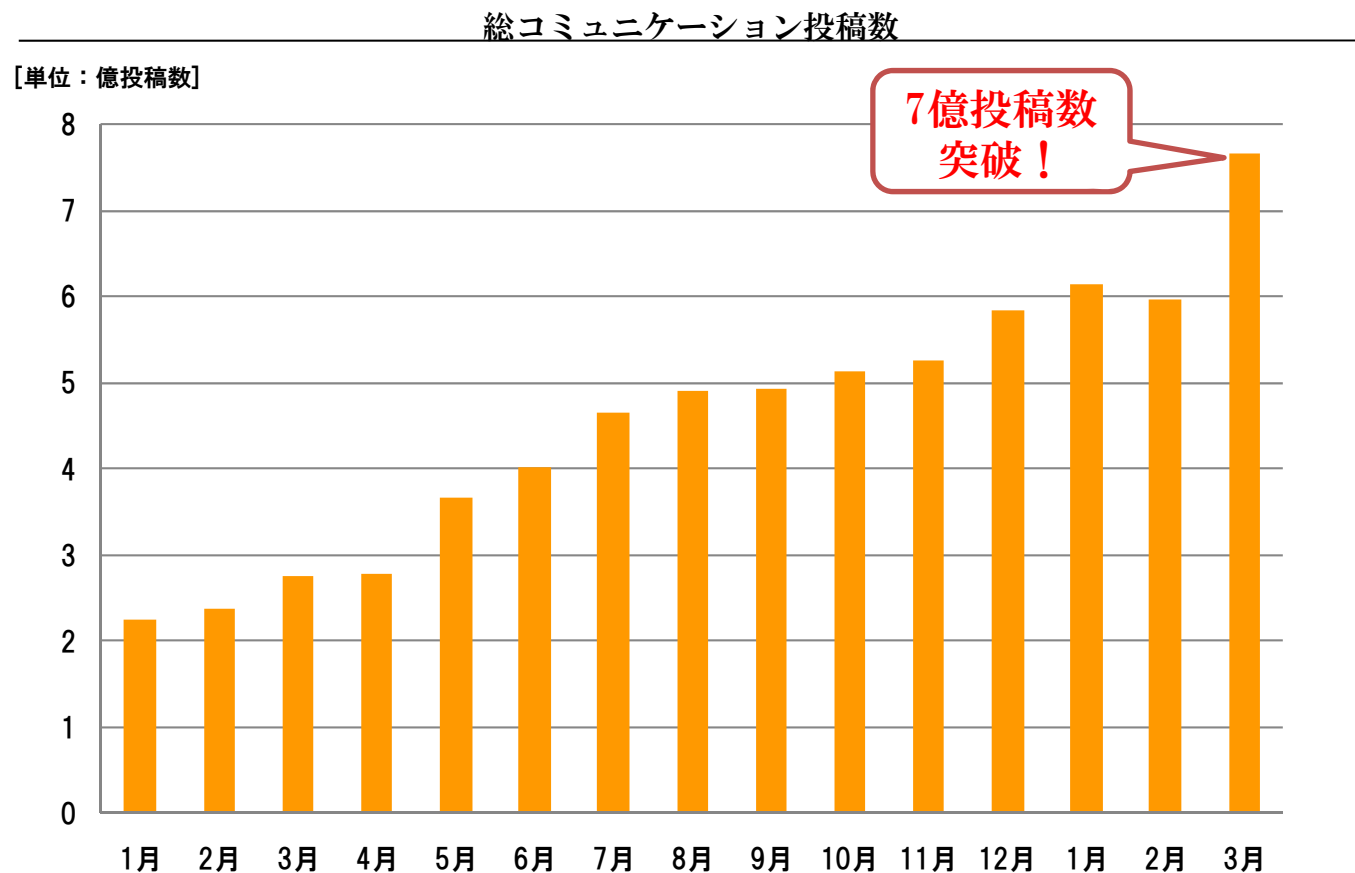
*2011年3月 月間ログインユーザー数及び登録ユーザー数は当社調べ

Copyright (C) mixi, Inc. All rights reserved.



主要データ：mixi総コミュニケーション投稿数

- ログインユーザー数の増加とともに、各種コミュニケーション機能が活発に利用され、mixi上での総コミュニケーション投稿数が大幅に増加



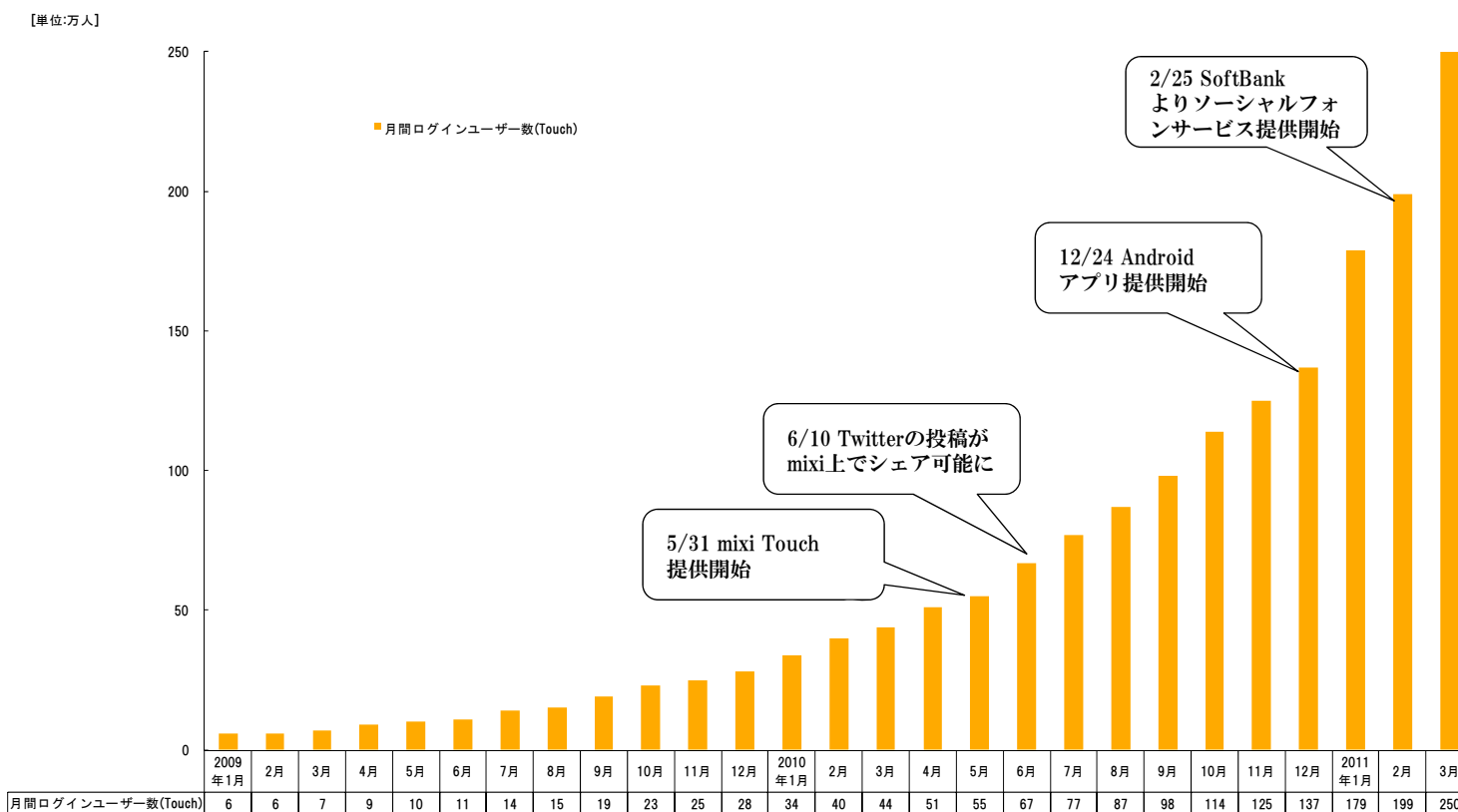
※総コミュニケーション投稿数：mixiのコミュニケーション機能（ボイス、日記、フォト、カレンダー、チェック、チェックイン、イイネ！）の投稿数及び各機能のフィードバック（コメント、イイネ！）数の総計を表す。



スマートフォンデバイスでの利用が増加傾向

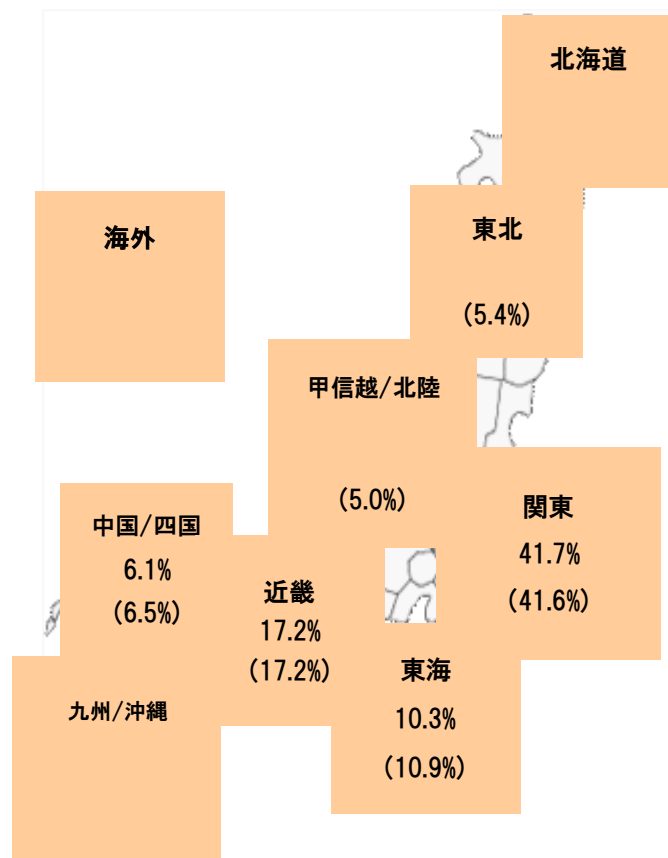
- スマートフォンで順調にユーザーが増加し、4月末で月間ログインユーザーは279万人に到達
 - 3/29にiPhoneクライアント(iOS)アプリを大幅アップデート

mixi Touchの月間ログインユーザー



*mixi Touchは2010年5月31日より開始。 mixi Touch 開始以前のスマートフォンからのアクセスはPC版を表示しております。
2011年1月よりmixi Touchの測定ツールを変更しております。

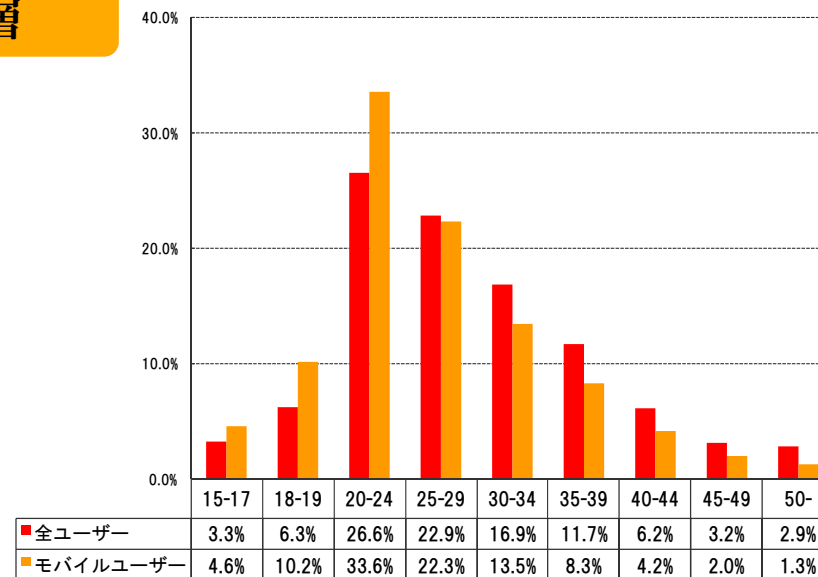
地域属性



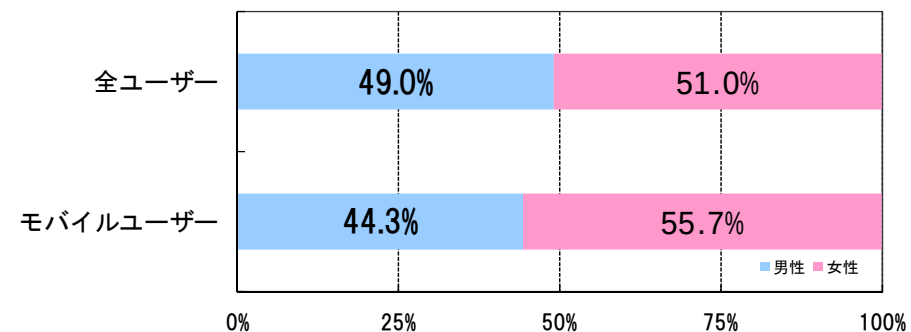
* 括弧内：mixiモバイル

* いずれも 2011年3月31日現在 当社調べ

年齢層



性別





災害時の弊社サービスの活用状況



震災時の活用状況（安否確認）

- コミュニケーションのインフラサービスとしての安定稼働
 - サービスを安定的に維持・稼働させるためにインフラ面を增強し、安否情報の確認及び被災地の情報収集・共有に役立つ

【安否確認のための利用】

- 『mixi』では、友人(マイクシィ)がログインした最終の時間が把握可能
 - 携帯電話等が不通の状態であっても、インターネットへの接続が可能な場合は、『mixi』へログインいただくことで、簡易的に友人の安否確認にご利用いただくことが可能
 - また、3月16日(水)からは、ひと目で友人の最終ログイン時間が一覧で閲覧できる新しいページを追加
- 『mixi』サービスの「メッセージ」や「mixiボイス」(つぶやき)を利用することで、自分の状況を友人に知らせることが可能
- 携帯電話のGPS機能や基地局情報などを利用した「mixiチェックイン」では、クリックするだけで自分のいる場所を発信することが可能



【情報収集・情報共有のための利用】

○ コミュニティの利用

- 『mixi』内には共通のテーマについて情報交換が可能なコミュニティ機能があり、ユーザーの皆さまが自主的に震災に関連する情報に関するコミュニティを作成
 - 地域別（市区町村や中小自治体別）、または目的別（救援物資、炊き出しなど）に応じたコミュニティが形成
 - ユーザーにより、多数存在する地震関連のコミュニティがカテゴリや情報別に整理
 - 大きなコミュニティでは、35万人以上が参加

○ その他、災害時に役立つサービスなどを掲載

- 『mixi』内において、災害時のご利用案内ページを設置
- 動画配信サイトや各種伝言サービスなど、災害時に役立つサービスへのリンクのほか、お気をつけいただきたいことなどを掲載



震災時の活用状況（数値状況）

○ mixiボイス

- 地震直後には、短いメッセージで自分の近況などを伝えることができる「mixiボイス」において、投稿数が約8倍（地震直後の15時台とその前の11時台の比較）となり、その後は、通常時の約2倍程度で推移

○ mixi日記

- mixi日記の投稿数は、3/12から上昇しており、特に東北エリアからの投稿数は44%増加

○ プロフィールページのPV数

- 「災害時のmixiの利用方法について」をアナウンス後、マイミクシィのプロフィールページのPVが増加
 - 地震発生日当日と翌日を比較し、PCにおいては、約90%以上、モバイルについては、100%以上の増加率

○ トラフィック急増への対応

- 災害時の急増に関しても数台のサーバー追加で対応
- 今後想定される突発的な震災時においても、電力等の部分で問題がなければ通常のバックアップ体制で対応が可能



SNSサービス活用のメリット

震災時の活用の有効性

- 地震発生直後、電話回線を介してデータのやり取りが行われる電話、携帯メールなどは回線がパンクし、つながりにくい状態が発生
- 一方で、利用者それぞれがアクセスし情報を入手するインターネットは、安定的に稼働を続けることができた

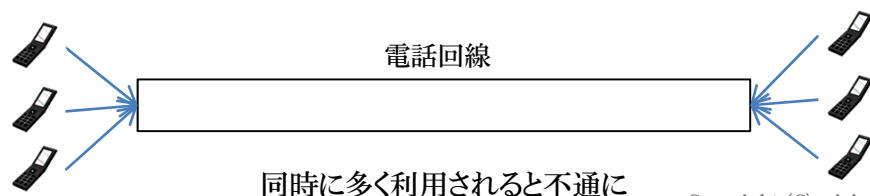
⇒ インターネットの積極的な活用により、震災時には有効な情報の伝達が可能に

電話、携帯メール

音声通話は、通話の際、一つの通信回線を占有する回線交換通信という方式で、電話をかけた時に利用できる通信回線がいっぱいの場合、通信回線のどれかが空くまで待つことになる。
道路交通の渋滞に近いイメージ。

一般的には、この許容量がパンクしシステムがダウンするのを防ぐために、回線が繋がらない状態となってしまう。

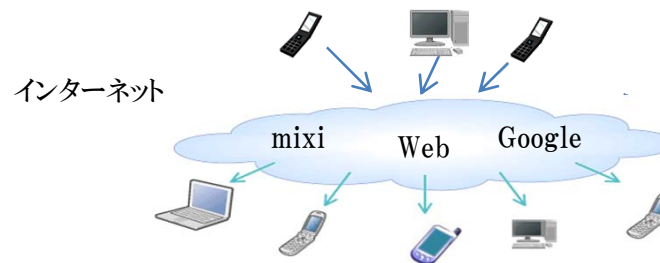
携帯メールもこの回線を利用しているため、送受信が行えなくなっていた。また、送信が完了しても受信をお知らせする通知がされず受信者は気付かない状態になっていた。
※結果的に「センター問い合わせ」等を大量に行わせてしまい、さらなる負荷がかかってしまった。



mixiなどのSNS、Webメール

インターネットの通信は、複数人が一つの回線を共有し、データを細かく分けて通信する「パケット通信」で行う。仮に途中で回線が物理的に断線していても迂回して通信する仕組みをもっているため、電話のような渋滞が起こらず、災害時でも利用が可能だった。

現在、各携帯会社も回線のパンクを防ぐために、サーバー上の情報にアクセスする仕様の「災害伝言版」サービスを利用するように案内をしている。これは、災害時でも安定稼働ができるからである。





震災時の活用の有効性

災害用伝言板運用中 スマートフォン(auモード契約)でもご利用いただけるようになりました。
 ただいま災害発生につき「災害用伝言板サービス」を開設しております。
 他社携帯電話・PHSから登録された安否情報も確認できます。

※一部地域ではつながりにくい場合がございます。

メッセージの登録について ※登録には以下のお客様が対象となります。

iモード対応機種でiモード契約中のお客様	スマートフォンでauモード契約中のお客様
iモード対応機種でのアクセス方法 ・日本語 : 「iMenu」⇒「災害用伝言板」 ・English : 「iMenu」⇒「Disaster Message Board」	auモード対応機種でのアクセス方法 ・日本語 : 「ドコモマーケット」⇒「災害用伝言板」 ・English : 「ドコモマーケット」⇒「English」

詳しくは、メッセージの登録方法をご確認ください。

【重要なお知らせ】
東北地方太平洋沖地震 復旧・被災地支援情報
 このたびの東北地方太平洋沖地震において、亡くなられた皆さまに深い哀悼の意をささげます。
 被災された皆さまへ心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。
 地震発生に伴い、一部地域においてソフトバンク携帯電話がつながりにくい状況が発生し、
 また、停電などによる基地局の不具合が発生した地域におきましては、サービスの中断によって大変ご迷惑をおかけしております。
 ご利用の皆さまには深くお詫び申し上げます。現在一日も早い復旧を目指して尽力しています。

詳細はこちら

ソフトバンクグループの被災地支援について
 詳細はこちら

【安否状況を登録・確認いただける「災害用伝言板」を開設しております】
 (一部地域ではつながりにくい場合がございます)

安否情報の登録・確認
 aho!ケータイ対応端末
 ボタン → 災害用伝言板

SoftBank スマートフォン
 My SoftBank (ログイン) → 災害用伝言板
 ※Wi-Fiでの接続時は「確認」のみ可能です。

iPhone (iOS 4.0以上)
 App Store → 「災害用伝言板」(無料アプリ)をダウンロード
 ※Wi-Fi環境では安否登録/確認はできません。

安否情報の確認
 iPad、パソコン、他社携帯電話から
<http://dengon.softbank.ne.jp/>
 ※安否情報の登録はできません。iPhoneでも確認できます。他社携帯電話・PHSの災害用伝言板に登録された方の安否情報も確認できます。

多くの利用者は、「災害伝言版」を危機時に利用できるほど、普段から扱いに慣れていない、
 またアクセス方法もわからない場合も多いのではないかと考えられる

mixiは、日常的な友人とのコミュニケーションに利用されているため、利用者もいざというときに使いやすい(日頃から使い慣れた)コミュニケーションツールだと考えられる

1. 非同期の通信であり、相手とその時にコミュニケーションをしなくとも、メッセージを残せて、いつでも見ることが可能
2. 通話は、1対1“のみ”のコミュニケーションであるが、mixiでは1対1のみならず1対nやn対nのコミュニケーションも可能であり、つながっている友人・知人に同時に発信することができ、かつコミュニティを活用することで情報を共有することも可能

行政機関の活用の参考例

- mixi内のコミュニティに当社が認定してページの設置が可能
 - 情報の確からしさにおいて、オフィシャルとしてユーザーに周知可能
 - 一方で、ユーザーからのデマなどの情報の取扱いについては注意が必要
- コミュニティ内での情報発信とチェックによる情報のシェアが可能
 - 災害時以外でも、行政機関より情報を発信し、その情報がユーザー間でシェアされることで、有効な情報ネットワークの構築が可能



①コミュニティ紹介

コミュニティの基本情報を告知、ここで弊社が公認することでユーザーに偽アカウントでないことを周知可能

②チェック機能

コミュニティの情報をチェックするだけで、友人知人間に情報がシェアされる

③トピック、イベント

情報発信したいことについてトピックやイベントを作成することが可能で、情報がアップデートされるとコミュニティに入っているユーザーに情報が告知される



サービスの特性に応じた情報共有

	メリット	デメリット
SNS	•実際の友人知人を介して安否の確認や情報の伝達が可能 •行政がオフィシャルにページを持ち、情報の発信を自由に設計可能	•特になし
twitter	•情報を即時に発信し、その情報がRTされながら伝播するスピードが速い	•情報がストックされないので、①古い情報が伝播される恐れがある②行政のまとめサイトとしての機能は果たせない
ポータルサイト	•情報ポータルとして、広くユーザーに除法公開が可能	•行政当局がページを自由に加工できない •情報が伝播されにくい
自治体HP	•情報の取捨選択のイニシアティブを持てる	•災害時に大規模なトラフィックをさばくことが出来ない（サイトダウンやメンテナンスの問題） •普段からサイトに行く習慣がない

ソーシャルメディアやインターネットを目的に応じて組み合わせることで、より有効な災害時への対応が可能となる

